

(様式1)

平成28年度 授業改善推進プラン 調布市立（ 石原小 ）学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

<p>【学力向上に関する学校経営方針】</p> <p>◆学ぶ気持ちの育成◆ 子どもたちの学ぶ気持ちを大切に、学力向上を目指し、校内研究の推進、教師の授業力向上に努める。</p> <p>①達成感・充実感を育てる授業：できなくて、わからなくて当たり前。できた喜びを大切に、子どもの学ぶ気持ちを育てる。</p> <p>②算数科授業の工夫改善：校内研究の授業研究(算数科)を柱に、教師の授業力向上を子どもたちの学力向上につなげる。</p> <p>③読書活動の充実：本との出会いは人生を豊かにし、豊かな心や学習の土台となる。また、児童の知的好奇心を育む。</p> <p>④オリンピック・パラリンピック教育の推進：子どもたちの健康・体力の増進、国際理解・障害者理解の教育を進める。</p> <p>⑤道德教育の改善：特別な教科「道德」の全面实施を視野に、授業改善、指導と評価のあり方を検討していく。</p> <p>⑥個に応じた支援の充実：子どもたち一人ひとりの個性をとらえ、その伸長を目指す。日本語指導・算数習熟度別指導の工夫・改善を図る。</p> <p>⑦いしわら教室の充実：困っている一人一人の子どもを支援する。いしわら教室の指導法を通常学級に生かす。</p> <p>⑧各学級における特別支援教育の取組：教育支援計画・個別指導計画の作成を進める。いしわら教室との連携を図る。</p>	<p>【都「児童・生徒の学力向上に関する調査結果分析内容」】</p> <p>各教科とも、「教科の内容」「読み解く力に関する内容」ともに東京都の正答率を上回る結果であった。特に「読み取力」の方が大きく上回っており、資料から情報を読み取ったり、それをもとに解決方法を見つけたりする活動に引き続き力を入れていきたい。「教科の内容」については、全体としては都平均を上回っているものの、「国語」と「社会」の「知識理解」は大きく下回っている。国語では「漢字の読み書き」、社会科では「調布市の位置」「都道府県の名前と位置」などの基本的な知識が定着していないことが原因であると思われるので、中学年の学習からしっかり基本的な知識の定着を図るようにしていく。「理科」においては、「技能」が下回っているため、実験や記録・観察の仕方、理科学習に使われる様々な器具の使い方が身に付くようにしていく。例えば、実験の条件を考える場面を設定したり、一部の子だけでなく全員が器具道具に触れるようにしたりするなど配慮をしていく。「算数」については、合格正答率を見ると上位から下位まで分布が広く個人差がとても大きい。習熟度別指導や個別指導を生かして、さらに個々の能力に応じた指導や工夫をしていく必要がある。また、「数学的思考」に比べて「知識理解」の方がやや落ちることから、授業内だけでなく朝学習や宿題でもドリル学習を用い、反復練習することで定着を図っていく。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【授業改善の方針・目標】

①基礎・基本および言語活動に重点を置き、②算数科を中心として、自ら進んで、筋道を立てて考え、表現する力を育成し、③他教科の学習活動にも活かすことのできる児童を育てる。

【授業改善のための具体的な取り組み】

(算数) ・「わかる・できる・楽しい算数授業 ～算数科指導の基礎基本を踏まえた授業づくり～」を研究テーマに、授業研究を中心とした校内研究を進める。

・問題解決型の授業を展開し、児童の主体性、思考力・表現力を育む。

・問題解決型の授業展開、板書方法、ノート指導等の効果を高めるため、全校で共通の取り組みを進め、「石原スタンダード」を確立していく。

各学年の重点指導項目（算数科）

1年	2年	3年	4年	5年	6年
・児童の理解を深めるために、具体物を活用する。 ・児童の学びを深め、つまづきをなくすために、T1 T2での指導を行う。 ・フラッシュ学習による反復練習で計算力の向上を図る。 ・少人数による話し合い活動を取り入れ、主体的に学ぶ場を確保する。 ・ステップアップワーク・ベーシックドリルの活用。	・見通しをもたせるための授業展開のパターン化 ・ノートの書き方等の学習のパターン化 ・意欲向上と学力向上のため、具体物の活用 ・活動を振り返り、次時への意欲をもたせるため、授業の振り返りを行う。 ・全児童の学びを深め、つまづきを解消するためにT1・T2での指導を行う。	・問題解決の授業展開を毎時間工夫し、子供が主体的に学べる授業を目指す。 ・フラッシュ学習や計算マラソンで計算力の定着。 ・ノート指導とともに板書計画も充実させる。 ・学習問題を解決するための考え方を尊重し、話し合う時間や場を設定する。 ・ステップアップワーク・ベーシックドリルの活用。	・前時の復習や見直し、興味をもたせる導入を工夫する。 ・自力解決や作業、計算などの算数的活動の充実で主体的に学べる場を設定する。 ・課題を解決するための話し合いの時間を確保する。 ・ノート指導と板書計画を充実させる。 ・本時の学習についての振り返りを行う。 ・ステップアップワーク・ベーシックドリルなどを活用する。	・課題について、解決に向かって考え話し合う時間の確保 ・少人数での個に応じた指導 ・ノート指導と板書指導の充実 ・ステップアップワーク・ベーシックドリルの活用 ・計算ドリル等を活用し、反復練習を行っていく。	・教師によるねらいの共有化 ・協力したり教え合ったりしながら問題解決することの価値付け ・スモールステップを意識した段階的な指導 ・ステップアップワーク・ベーシックドリルの活用 ・課題について、解決に向かって考え話し合う時間の確保

(国語) 読む力、解決する力が不十分なので、読む力のベースになる読書指導や読み取りの観点の指導を取り入れる。漢字の読み書きが苦手な児童が多いので、漢字の学習を繰り返し行い、定着を図る。

(社会) 基本的な知識の習得ができていない子が多いので、調布市の位置や都道府県名などの定着を図る。また、資料から情報を正確に読み取る力が不十分なので、資料を活用する場面を意識的に多く入れる。

(理科) 観察や実験の結果を表やグラフにまとめ(結果の見える化)、傾向を読み取ったり共有したりする機会を多くする。ビデオや写真資料を活用し、ノートに基礎的事項をまとめさせて、考察する力を伸ばすとともに基礎的事項の理解と定着を図る。

(体育) 学習を行っていくための基盤となる体力の向上を図るとともに、互いに関わり合って学習する力を培う。児童が基本的な体の動かし方を学び進んで運動できるようにする。

(音楽) 表現活動には意欲的に取り組む児童が多いが、共通事項(音楽を形づくっている要素)を理解した上で、表現の工夫をすることはまだ十分できていない。音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組みや音楽にかかわる用語をおさながら指導をしていく。

(図工) 造形活動には意欲的であるが、作業の基本になる用具の安全な使い方がまだ十分にできていない。用具の扱いに慣れ、扱い方が身に付くように、同じ道具を繰り返し使う課題を設定して定着を図る。

(家庭) 布を用いた制作活動では、基礎的・基本的なことを習得し、生活に生かすことのできる技能の定着を図る。また、日常食べている食品に含まれる栄養素の種類や働きを調べたり発表したりして、知識の定着を図る。

(生活) 自然や人とかかわる体験が不十分などがあるので、実物に触れる機会を多く設定する。また、多様な気づきができるように、対象とかかわる時間や気付いたことを伝える場を作り、対象に対して気づきを深めていくようにする。

【取り組みの進行・管理, 評価方法, 時期】

・8月中に各学年において、より具体的な各教科の授業改善策や重点指導項目を明示した授業改善プランの補助資料を作成する。

・10月末に授業推進部を中心に各学年、専科教員による中間評価を行う。評価は授業改善推進プラン補助資料に示した評価規準に沿って実施し、適宜目標の見直しや修正を行う。

・2月末に授業推進部を中心に各学年、専科教員で最終評価を行う。また併せて保護者や地域による学校評価から授業改善推進プランの効果を検証し、次年度の指導計画の作成に活かす。

平成28年度 授業改善推進プラン（留意事項）

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読む力、解決する力が不十分なので、読む力のベースになる読書指導、確かな読み取りの力のもとになる読み取りの観点の指導などを取り入れていく。 ・漢字の読み書きが定着しない児童が多いので、漢字指導を丁寧に行い、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみ読む力が育つように、6月と10月の年間2回読書週間とし、お気に入りの本の紹介を全校児童が一人2枚以上、教師や図書委員による読み聞かせを2回以上行う。 ・読み取りの観点を示し、繰り返し指導をしていくことにより、70%の児童が自らが読み進めていくことができるようにする。 ・毎回の漢字指導や宿題、漢字テストなどで定着を図り、80%の達成率となることを目指す。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や白地図の活用、自分の住む地域の図を自分で描いて名称を書き入れたりする活動を繰り返しさせることで、基本的な知識の定着を図る。 ・資料から、情報を正確に読み取ったり、複数の資料を結び付けて考えたりする力が不十分なので、資料を活用する場面を意図的に多く取り入れる。また、資料の読み方を指導したり、資料から自分なりの考えや疑問をもたせたりする活動を設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な地図記号の問題や、調布市とその周りの市区の名称と位置などを覚えることについてワークシートや確認テストで知識の定着を図り、80%の達成率となるよう理解の定着を図る。 ・都道府県の位置や名称の理解を定着させるために、地図帳を活用したり、白地図に書き写したりする活動を重点的に行う。継続して知識の定着を図る。 ・資料の読み取りをして、グループで80%、全体の場では70%の児童が考えを発表できることを目指す。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の力を向上させるために、四則計算の練習問題に継続的に取り組む。学年の実態に応じて、最初の5分に100マス計算等に取り組ませる。また、家庭学習としても日常的に取り組ませる。 ・学習した内容をノートで確認できるよう板書計画やノート計画をしっかりと行う。 ・図や式、言葉を用いながら自分の考えを明確に表現できるようノート指導に重点的に取り組む。 ・児童相互で考えを深めていけるよう、課題に対する検討の時間を確保し、活発な相互啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・80%以上の児童が当該学年の基礎的な内容を身に付けられるようにする。 ・80%以上の児童が、その時間の課題に対する自分の考えをノートに表現できるようにするとともに、表現できない児童に対しては個別に対応して考えるヒントを与え、友達のを参考にノートに書けるようにする。 ・発言する児童が偏らないよう配慮しながら幅広い意見から検討させる。児童はその時間内に一度は挙手、発言、質問等で自分の考えを表現することを目指す。 ・毎時間児童のノートをチェックして理解度や考え方を評価する。90%以上の児童が、その時間の課題や課題に対する考え及びまとめをノートに書けるようにする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の結果から正確に情報を取り出し、読み取ることを苦手とする児童が多いので、実験後に、表やグラフに表して傾向を読み取って考察したり、実験結果を共有したりする場を設定する。傾向や特徴が見えるように結果をまとめ、考えたことをじっくり吟味させる。 ・ビデオや写真などの資料を活用し、ノートにまとめをさせ、基礎的事項の理解と定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後に学習感想や振り返りを書かせ、各自の実験結果の読み取り状況や関心・意欲を把握し、個別指導に役立てる。科学的用語を使ってまとめが書けるように、視点を与える。 ・実験や観察の結果を表やグラフ等にまとめる方法を経験させることで、考察の仕方を身に付けさせる。個の気づきをノートに書いた後、班や学級で話し合い、共有させることにより言語活動の充実を図る。 ・単元の最後に、振り返りとまとめの時間を確保し、理解の定着を図る。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動には意欲的に取り組む児童が多いが、音楽活動の基礎的な能力が不十分なので、個別での支援を行っていく。 ・共通事項(音楽を形づくっている要素)を理解した上で表現の工夫ができるよう、音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組みや音楽にかかわる用語をおさえながら指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な表現能力を伸ばすため、個人の技能を確認した上で個別指導をする。各学年の技能面の到達目標を80%の児童が達成できるよう必要に応じて休み時間等を使い、個別に指導する。 ・共通事項の指導では、視覚的教具を使ってわかりやすく提示する。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動に対して、とても意欲的である。しかし、用具や材料の扱いが少しずつ身に付いてきているが、ぎこちない児童が少なくない。作業の基本になる用具の安全な使い方が身に付くように、同じ用具を繰り返し扱う課題を設定し、定着を図る。 ・材料や用具の特徴を把握し、自分なりに選んで活用していく力が全体的に弱い。「造形遊び」の時間などで材料にじっくり向き合う機会を設けたり、色々な材料から自分なりに選んで活かしていける題材を増やし、経験を積んでいけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ用具や素材を扱う授業、あるいは以前取り組んだ似ている行程のある課題を設定し、各学年の技能面の到達目標を80%の児童が達成できるように指導していく。また、用具や材料の安全な使い方、あるいは効果的な使い方を繰り返し確認し、定着を図る。 ・自分なりに用具や材料を選び、活用していくことができる題材をどの学年でも1つずつ設定し、取組んだ全員が作品を仕上げることができるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・持久力および握力向上のため、各学年の実態に応じて、導入時にサーキット形式のウォーミングアップを取り入れる。(例えば、6年生では、授業の始めに3分間持久走を入れたり、固定遊具を使ったウォーミングアップをしたりする。)また、マラソン週間や縄跳び週間等を設定して年間を通して継続的に運動する機会を設ける。その際低・中・高学年ごとの学習カードを用い、児童が意欲をもって運動できるようにする。10月にマラソン大会を行う。2学期後半、3学期前半になわとび週間を設ける。その時には友達同士の教え合いも取り入れながら技能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会では各学年に応じた設定時間内で完走できる児童を100パーセントにするため、2週間あるマラソン週間で5分間を歩かず走り続けるよう、教員全体で児童に声をかける。 ・マラソンカードと縄跳びカードを用意し、短なわ週間には、前や後ろの連続両足跳びを互いに見合うなど学級の友達同士、相互でアドバイスをしながら技能の向上を図る。また大なわ週間も行う。大なわ週間の最終日に行う大なわ大会では、低学年・中学年・高学年において6分間でそれぞれ累計160回・350回・500回以上を目指す。その際、記録も大切だが、友達と協力する、ともに成長するという趣意説明も大事にする。 	
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・布を用いた製作活動では、基礎的・基本的なことを習得し、生活に生かすことができることができる技能の定着を図る。 ・日常食べている食品に含まれる栄養素の種類や働きを調べたり発表したりして、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・布作品の製作では、毎時間習得すべき技能を80%の児童が確実に身に付けられるように指導する。また、やりきれなかった児童には、授業以外の時間に取り組ませるように配慮する。 ・調理実習では、バランスよく食品を組み合わせる食べられるような献立を考え、各種栄養素の大切さを80%の児童が理解できるように目指す。 	
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や人とかかわる体験が不十分な面があるので、身の回りの人や実物に触れる機会を多く設定し、学習を進めていくようにする。 ・多様な気づきをすることが不十分なので、対象とかかわる時間を十分に取る。さらに、活動だけにならないように気付いたことを伝える場を必ず作り、対象に対しての気づきを深めていけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期2回以上、地域の教材や人材を生かした学習を行う。 ・気づきの視点を児童に示し、児童がより質の高い気づきができるよう、教師が児童のカードにコメントを入れ、気づきの表現の仕方を教えたり、認めたりしていく。 ・実物に触れた後にペアや全体で気付いたことを伝え合う言語活動の時間を設け、気づきの種類を増やしていく。 	